

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	江口 文子
主な担当科目	指導法特別演習_ピアノ,ピアノ
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	音楽大学でありつつ、社会との関わりをもっと持つような専門性を高める。 直接に関わるのが難しい海外や遠隔地の方と音楽を通してコミュニケーションを取り、連携していくことで音楽教育の新たな領域を模索していく。☑
2024年の教育に関する自己評価	技術はもちろん、学生が独自の感覚や特色を周りと共有し社会との関わりをもつことをより認識できた。活発なコミュニケーションや質疑応答を取り入れ、学生の現場力を引き出すことを常に意識し積極的に活動することができた。過去の芸術を再現するより、今を生きる人に向けて発信することを意識し、工夫を積み重ねることでまた少し新たな可能性を見出すことができた。☑
2024年のFD活動に関する自己評価	様々な方のお話を伺い、皆、時を共に過ごしていることを再認識し、多様な背景を持つ学生が持続的に学べる環境に意識をおき、新しい情報を取り入れながら、自己の研究活動に生かすことができたと感じている。
授業改善のために取り入れた研修内容	学年や国籍、専攻の壁を乗り越えてコミュニケーションの幅を更に広げ、自分の仕事に応用した。 部会を超えて他教員と連携を深め、学生の状況を丁寧に把握し、学生のニーズを受け入れながら学生のためになる授業を展開できたと認識している。

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1730 教員名:江口 文子

1) アンケート結果に対する所見

授業において「指導法特別演習__ピアノ」は年間 30 回のうち、15 回担当した。受講生8名のうち6名が回答する中、回答者の 100%が「そう思う」と回答しているのは嬉しく受け止めている。「インターンシップ」は年間30回のうち、3回担当した。受講生6名全員が回答する中、83.3%が「そう思う」、16.7%が「少し思う」と回答したのは、ほぼ全員が満足し興味持って参加したことが読み取れる。

全体として、こちらの意図が伝わり良好なコミュニケーションが図れたと理解している。

2) 要望への対応・改善方策

授業:いずれの科目も教職や指導に携わる目標を持った学生のための大切な授業である。学生の意見に耳を傾けつつ、活発なコミュニケーションや質疑応答、実践を授業に取り入れて、学生の現場力を引き出してゆく所存である。学生の実践的な力を培っていききたい。

3) 今後の課題

特に担当回数が少ない授業においては、他教員との連携を深め、学生の状況を丁寧に把握し、学生のニーズを受け入れながら、学生のためになる授業を展開していききたい。

人とのコミュニケーションを取りにくい学生が以前よりも増えているように思われる。音楽をする事でより自由な気持ちを生活に持てるよう、教材等も様々な視点で考え、ご指導をいただきながら大切に時間を使いたいと思う。

以 上